

# 行歯会だより 第107号

(行歯会 = 全国行政歯科技術職連絡会) 平成 28 年 1 月号

## 【今月の記事】

### 1 年頭所感

行歯会会長 (江戸川区葛西健康サポートセンター) 長 優子

### 2 歯科界及び地域で活躍する行歯会会員へのエール

～今一度、歯科領域のヘルスプロモーションを考える～

東洋大学ライフデザイン学部健康スポーツ学科 教授 齊藤 恭平

### 3 平成 27 年度 第 3 回行歯会理事懇談会報告

神奈川県小田原保健福祉事務所

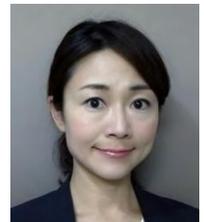
足柄上センター保健福祉課

加藤 千鶴子

## 1 『年頭所感』

行歯会会長 長 優子

(江戸川区葛西健康サポートセンター)



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

また、行歯会の運営および活動につきまして、旧年中に賜りましたご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

国からは「一億総活躍社会の実現」に向けた方針が示され、少子高齢化という構造的な課題に対し、新たな道筋が取りまとめられる予定です。健康長寿、健康格差解消、地域包括ケアシステム構築、子育て支援、災害対策等、自治体や配属先によって課題や携わる業務内容は個々に違いますが、行政の歯科専門職が力を発揮する場は多岐に渡ります。常にアンテナは高く広く、会員皆様のお役に立てるようタイムリーな情報の発信・共有に、引き続き取り組んでまいります。

さて、昨年を振り返ると、対外的な活動が徐々に増えてきたことを感じる一年でした。例えば、厚労省歯科保健課主催の“歯科口腔保健に関する意見交換会”に出席し、

地方行政の声を届けてまいりました。ほかに、日本歯科医師会と「特定健診・特定保健指導への歯科関連プログラム導入に向けた意見交換会」を企画、開催いたしました。日本歯科医師会主催の災害歯科保健医療連携協議会では、多くの関係団体と共に参画させていただき、現在も継続中です。

また、行歯会のネットワークを活かした取り組みとして、各都道府県世話役を通じて5歳児歯科健康診査の集計に係る調査を行いました（行歯会だより 102号に報告掲載）。このような調査を継続的に行えるよう、今年も検討を進めてまいります。

10年前は行政の歯科専門職の全国的なつながりはなく、行歯会の主要な目的は「会員同士の情報交換」でした。行歯会発足から11年が経過し、現在会員は700名を超えました。行歯会の目指すところは、単なる情報交換から、人材育成を意識したつながりへと変わりつつあります。昨年行歯会だよりで“若手奮闘記”の連載を開始し、皆さんの活躍に期待が膨らむと共に、次世代へ継承すべきことを考えさせられました。そして先輩方からは学ぶべきことが多くあります。新任、中堅、上級者がそれぞれやるべきことや、庁内・多職種・地域との連携、さらには常勤の歯科専門職がいない地域の歯科保健についても目を向けていきたいです。一個人、一自治体では解決できないことに、行歯会としてどのように取り組むことができるのか、今後も皆様のお知恵とお力をお貸しください。

行政の歯科専門職がつながることで、これまで各地域で積み上げてきた地域歯科保健を継承し、さらに発展させ「日本国民に世界最高水準の歯科保健を提供」することを目指してまいります。

本年が、会員の皆様にとって実り多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

## 2 歯科界及び地域で活躍する行歯会会員へのエール

～今一度、歯科領域のヘルスプロモーションを考える～

東洋大学ライフデザイン学部健康スポーツ学科  
教授 齊藤 恭平



WHO がヘルスプロモーションを提唱してから、すでに 30 年ほど経過しています。これまで先進国を中心に、このヘルスプロモーションを柱とした多くの活動が展開されてきました。ヨーロッパでは WHO を中心としたヘルシーシティー (Healthy City)、アメリカでは国家戦略であるヘルシーピープル (Healthy People)、そして日本では 2001 年より健康日本 21 が実行されています。保健領域において、今やこのヘルスプロモーションは欠くことのできない考え方として定着しています。

歯科保健の領域においては、九州や新潟の先生方を中心に PRECEDE-PROCEED モデル (MIDORI モデル) を用いたヘルスプロモーション活動が集中的に実施された過去がありました。歯科保健領域においては、このモデルを、そのままヘルスプロモーションとイコールとして考えている方もおり、このモデルの援用上必要となるグループワークや付箋を使ったデータ整理が、あたかもヘルスプロモーションの技法のように勘違いしてしまっている方さえいらっしゃいます。ヘルスプロモーションがこのように限定したモデルや技法に勘違いされてしまっていることには残念さを感じています。

WHO のヘルスプロモーションは当初から 5 つの活動方法を提唱しており、今も変わりありません。それは、「健康的な公共政策づくり」「健康を支援する環境づくり」「個人技術の開発」「地域活動の強化」「ヘルスサービスの方向転換」です。これらに関して保健医療の専門家だけでなく、地域の様々なリソースを巻き込み、住民の参加や協働により、健康づくりを創造するイノベーション・プロセスがヘルスプロモーションなのです。地域の歯科保健においても、この 5 つの活動を通じたプロセスが実践されなければいけません。

「健康的な公共政策づくり」について、これまで歯科医師会は「8020」や「口臭さよなら宣言」など様々な施策の提言をしてきました。その中でも 8020 など一般住民にも浸透した歯科保健コピーとして成功だったと思います。しかし施策だけでは住民に対する影響力や規制性に乏しいのも事実です。健康日本 21 を強化するために健康増進法ができたように、歯科保健施策を補完する法律も必要でした。このような点からすれば、近年施行された歯科口腔保健法は画期的であったといえます。加えて地域においては歯科保健に関する条例の制定や計画の策定なども積極的にすすめられるべきです。

2 つ目の「健康を支援する環境づくり」に関してはどうでしょうか。地域にこれほど歯科診療所があり、その数はコンビニより多いといわれているなかで、その歯科診療

所が歯の健康を支援する環境として機能しているでしょうか。歯科診療所は治療のためだけの場だけではなく、予防や健康教育を積極的に牽引する場として機能することが必要です。また、健康のための環境は、本来的には人々の生活の場に設定するのが望ましいわけですから、学校や職場に歯磨きやフッ化物、歯科健診の場や機会を設定することに対して歯科保健関係者は努力すべきでしょう。そのためにも、学校歯科医に期待されることは大きいですし、行政歯科関係者や地域の歯科医師会が企業や商工関係者へ積極的なアプローチを仕掛けることも必要なことだと考えます。

3つ目の「個人技術の開発」については、住民の歯科保健のリテラシーを今一度確認する必要があります。もしそれが十分ではないとしたら、その健康教育上の不備はいつ、どこにあるのかを検証する必要があります。歯磨きひとつとっても、未だにその正しい方法は住民に伝わっているとは言い難いと思います。歯磨き方法に限らず、定期的な歯科健診の必要性やかかりつけ歯科医とのかかわりなど、そろそろ本当にエビデンスのある歯科保健テクニックを、適切な年代に効果的な健康教育で伝えなくてはなりません。そのためにも行政の歯科衛生士の役割に期待したいところです。

4つ目の「地域活動の強化」が歯科保健において一番弱い部分かもしれません。地域には健康に関する住民活動が存在します。食に関しては食生活改善推進員、運動は運動普及推進員など、専門職の活動をサポートし、自主的な活動を展開している組織があります。しかし歯科保健に関してはこの類の組織が少ないと思います。全国的にみると、いくつかの地域で8020推進員の養成も行われていますが、その実態や効果は検証されていません。地域歯科医師会や行政の歯科衛生士が中心となって歯科保健に関する住民の地域活動を強化する策が必要であると考えます。またその場合、食や運動に関する住民組織とのコラボレーションがヒントになるかもしれません。

最後に「ヘルスサービスの方向転換」についてです。歯科医療にも治療から予防へというパラダイムシフトが求められています。そんな中、歯科医師の本音は何処にあるのでしょうか。考えてみれば身体な中で、予防や早期発見・早期治療によって、もっとも機能の残存効果があるのは歯なのではないでしょうか。言い方を変えれば、「ピンピンころり」が最も可能なのは歯なのではないでしょうか。歯科の専門家はもっと責任と自信を持って歯科健診や健康教育を推進し、積極的な予防活動を世の中に講じる必要があると思います。

ヘルスプロモーションの5つの活動に沿って、思いつくままに書かせていただきました。このような機会を与えていただいた行歯会の関係者の皆様には心から感謝いたします。私自身が歯科専門家でないため、内容的にご批判いただく部分もあろうかと思えます。お許してください。

### 3 平成 27 年度 第 3 回行歯会理事懇談会報告

神奈川県小田原保健福祉事務所  
足柄上センター保健福祉課

加藤 千鶴子

日時：平成 28 年 1 月 6 日（水）午後 7 時～9 時

場所：オフィス東京第 4 会議室

出席者：長、高澤、安藤、石川（明）、白井、田村、柳澤、山田、吉野、加藤

オブザーバー：大島（日歯大短大教授）、秋野（厚労省老健局老人保健課）

#### 【報告事項】

- 1 8020 財団会誌 行歯会記事について（長）
  - ・会誌 8020 第 15 号に行歯会紹介の記事を執筆した。1 月発行予定。
- 2 世話役の交代について（安藤）・会員名簿の更新について（柳澤）
  - ・新世話役 島根県：中島さん、岐阜県：林先生
  - \*次年度の会員名簿更新作業に合わせて“歯っとサイト各都道府県の世話役一覧”の更新を行う。

#### 【協議事項】

- 1 次年度各都道府県世話役と次期理事について
    - ・理事任期 4 年。平成 28 年度で現理事は一区切りとなる。平成 29 年度から新体制になるため、今から意識しておく。
  - 2 行歯会だより
    - (1)編集担当者交代について  
平成 28 年 1 月で片岡先生が担当終了となり、2 月からは高橋環さんメイン、サブは原田先生。
      - ・H28.8～H29.1：原田先生、吉野さん（サブ）
      - ・H29.2～H29.7：吉野さん、山田先生（サブ）
      - ・H29.8～H30.1：山田先生、サブ未定
    - (2)連載記事の内容案について  
記事の内容は、次の 4 本柱とし、事前に執筆依頼をして年間スケジュールを確定しておく。
      - ・フッ化物洗口の取組～各地のレポート～（隔月掲載）
      - ・特定健診・特定保健指導の取組～各地のレポート～（隔月掲載）
      - ・若手奮闘記
      - ・先輩からのエール
- <その他意見>
- ・都道府県ブロック会議の報告を単発掲載する。
- 3 災害歯科保健医療連携協議会 WG 報告（柳澤）
    - ・ワーキング 2 回終了。3 回目終了後に災害歯科保健医療連絡協議会（親会議）が開催される→長会長出席
    - ・日本歯科医師会にセンターを設置し、情報収集等行う機能を所有させる構想がある。ワーキングのたびごとに会長が交代しているが、現時点では継続と思われるものの、今後の方向性がどうなっていくかは不明。

- ・各都道府県の防災計画を集めて、発災時の各都道府県歯科医師会の動きや役割を把握する方向も検討している。
- ・行歯会として、会員アンケート（WebQ）を今年度中に実施予定。フォーマットは、少し質問項目を絞っても良いと思う。発災時に行かれるか、被災地支援の経験があるか等などの項目追加も考える。

#### 4 厚労省対策

厚労省対策について協議した。

##### 【現状認識】

厚労省の歯科技官のうち、自治体出向経験があると自治体との距離が近い。現状は自治体との距離が乖離しているのが課題と感じる。自治体から厚労省への出向は歓迎すると思う。歯科職同士の交流交換は難しくても、他部署の事務職と交流交換している事例もあるので、そういう方法であれば可能かもしれない。

##### 【対応】

以上の現状認識を受け、フリーディスカッションを行った。様々な意見が出されたが、歯科保健課に関しては地方自治体の歯科技術職（≒行歯会）との距離感を縮める対策が必要との意見が多く、具体案として歯科保健課が担当している旬なテーマについて「行歯会だより」に原稿依頼してはどうかという意見などが出された。

#### 5 千葉県 歯科衛生士新任研修報告（高澤）

千葉県は、54市町村中、35市町村（64.8%）に歯科衛生士が配置されている。今年度8名が新採用されたこともあり、県が新任者研修を開催。原則、経験5年未満者を対象、27名が受講した。ワールドカフェ方式でのグループワークも行った。県の研修担当者も受講者の反応が大変良く、手応えのある研修は初めてだという感想だった。

Q：ここまで歯科衛生士を雇用できる背景は何かあるのか？

→ 千葉県は、元々、県保健所ではなく市町村に配置されていたが、県条例もあり、条例制定市町村も多いので、条例を根拠に採用されたところもある。ここ数年採用が続いている。

#### 6 次年度公衆衛生学会（大阪 10/26～28）自由集会について（安藤）

- ・近畿ブロック理事に内容企画はお願いする方向。

\*次回は、次年度5月頃を予定



☆編集後記☆

日差しも暖かく春の足音が遠くに聞こえてきそうなこの頃です。すでに早咲の桜がみられるようになりました。今年もよろしくお願いします。(T)

その一方で、日本海側は急に寒くなりました。「寒い、寒い」と最後の編集後記をパタパタと打とうするが、前に進まず・・・。  
この半年間、突然の原稿依頼に快く対応してくださった方々に感謝申し上げます。  
会員の皆様、今年もよろしくお願いします。(K)

「歯っとサイト」 掲載コンテンツ募集！

「歯っとサイト（歯科口腔保健の情報提供サイト）」

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html>

では、掲載コンテンツを募集しています。

- ・ Web 媒体（リンクをはる）場合は、下記 URL へ

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/youbou.html>

- ・ PDF 等のファイル媒体での提供も可能です。

希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている窓口宛に御連絡ください。